

～見る・学ぶ・働く・喜び合うことが大切～

みんなが知った、収穫のよろこび。 みんなに芽生えた、食べ物を大切にする心。

10月19日は
食育の日

親子でいっしょに農作業を体験し、楽しみながら食や農について学ぶ、JAグループ福岡あぐりの会「親子でチャレンジ!ファミリー農園」。今年は3つのJA(福岡豊築、にじ、筑前あさくら)で実施。今回はさる9月26日に、JA福岡豊築で開催された、第3回目ファミリー農園取材しました。当日のチャレンジメニューは稲刈り。眩しい陽射しのなかで黄金色のこうべを垂れる夢つくしの稲穂を、参加された家族の皆さんは元気いっぱい刈り採りました。しっかり実った夢つくしの束を持って、参加者は皆さんにっこり。収穫の秋を存分に満喫した親子のみなさんをレポートします。

※今年の「あぐりの会 農業体験」の募集は終了しました。



レポート①

楽しかった稲刈り! 豊かに実った稲に、思わず笑顔。

サクッ、サクッ、晴れわたった空に、稲を刈る小気味いい音が響きます。小さな手に握った鎌で一生懸命に稲を刈るのは、行橋市から親子3人で参加した内村さんファミリーの長男で、小学1年生の光さんです。お兄さんのとなりで、3歳になる華さんもお手伝い。お兄さんが刈った稲を束ねています。「日頃、もお手伝い。お兄さんが刈った稲を束ねています。「日頃、農業を体験することがないので、子どもたちが土や農作物に触れる機会が欲しかったんです」と話してくれたのはお母さんの幸代さん。二人のお子さんも「稲刈りは楽しかったよ!」と笑顔です。「農作業を体験する子で、食べ物のありがたさを知ってくれたら、本当にうれしいですね。そう話す幸代さんのそばで、「ご飯は大好き、残さないで食べるもん」と光さん。食べ物の大切に思う心は、しっかり育っている様子でした。



行橋市 内村さんファミリー

レポート②

農作物を作る苦労も知った、 充実した農業体験をエンジョイ!

JA福岡豊築のスタッフの指導で、稲刈りにチャレンジした太央さんと華央さん。下村さんファミリーの小学1年生になる双子の兄弟です。最初は戸惑いながらの稲刈りも、慣れてくるとすっかり上手に。お母さんの朱美さんと一緒に、手際よく稲を刈っていきました。「私も農業に関心があったので、子どもたちにも体験させたかったんです」と、お母さんの朱美さん。お米に限らず、多くの農作物は農家の方たちが大変な思いで作っていることも知って欲しかったとも話してくれました。稲刈りの後で見学した、穀物貯蔵施設の大きなサイロに二人のお子さんも興味津々。太央さんは「稲刈りも楽しかったけど、農業をまくラジコンヘリコプターもかっこよかった!」と大喜び。上村さんファミリーにとっては、明るい笑顔も大収穫の一日でした。



行橋市 下村さんファミリー

レポート③

飽食の時代だからこそ、 食に感謝する気持ちを育みたい。

飽食の時代といわれるいま、食べ物への感謝の意識が薄れているように感じられます。確かに現代は、お金さえ払えば食べ物は簡単に手に入ります。しかし、それらの食物が出来るまでには多くの人の手間と時間がかかっています。たとえば、一粒の米にも八十八日間の手間が必要です。そうした事実を、とりわけ子どもたちに知ってもらい、食べ物に感謝する心を育むことが、この農業体験の大きな狙いです。もちろん、自分たちの地元で採れた、新鮮で安全・安心な農産物を食べる、地産地消の素晴らしさも感じてもらいたいと思います。また、豊かな自然の中で、親子のみなさんがふれあう。同時に我々も都市部のご家族とふれあう。そうした交流を通して、多くの方に農業の大切さを認識してもらいたいと考えます。



JA福岡豊築 代表理事組合長 蛭崎 正徳

広告 企画・制作/毎日新聞西部本社広告局



..... 地域に根ざした
食育コンクール2009募集
応募締切 平成21年11月13日(金)必着

☆家庭・学校・地域で実践する健全な食生活、食農教育、食の安全、安心等についての取り組みをどしどし応募してください。詳しくは、電話かホームページでどうぞ。

応募書類送付先

〒810-0001 福岡市中央区天神4丁目10-12 JA福岡中央会
「福岡食育コンクール2009係」

TEL.092-711-3911/FAX.092-724-1218
ホームページ <http://www.jagr.org/> アグリふくおか 検索

